

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 10 日現在

機関番号：32621  
研究種目：基盤研究(C) (一般)  
研究期間：2014～2017  
課題番号：26370293  
研究課題名(和文) 英国ミドルブラウ文学・文化に関する学際的研究

研究課題名(英文) Middlebrow Literature and Culture in Britain

## 研究代表者

松本 朗 (MATSUMOTO, Hogara)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：00365678

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、Winifred HoltbyとVera Brittainという大卒のジャーナリスト兼作家が多数の定期刊行物に執筆した記事を渉猟・分析した上で、これらの作家の小説テキストおよびそれらを原作とする映画テキストを検討することによって、彼らが、同時代のハイブラウの作家とブラウの戦いを展開しながら、もう一方で、大衆教養主義という言葉に代表されるような、教養を身につけて社会的上昇をめざす下層中流階級のミドルブラウの読者にアピールする執筆活動を行って、イギリス社会が福祉国家へと向かう戦間期の動きの一翼を担っていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The project showed that Winifred Holtby and Vera Brittain, British middlebrow women writers, fought the "Battle of the Brows" against such highbrow modernist writers as Virginia Woolf and Q. D. Leavis. Holtby and Brittain, through their novels and articles they wrote as journalists in middlebrow periodicals such as Good Housekeeping, negotiated the terrain between high and low culture, thereby blurring the boundaries between two cultures by promoting the cultural aspiration the middlebrow readers embraced.

研究分野：イギリス文学

キーワード：ミドルブラウ文化・文学 ジェンダー イギリス 定期刊行物

## 1. 研究開始当初の背景

2010年代以降、英米のモダニズム研究が拡大する一方で、モダナイゼーションの動きに伴って台頭した新興のミドルブラウ層にアピールしつつ、イギリス社会をダイナミックに変容させつつあった英国ミドルブラウ文化・文学に関する研究が興隆した。本研究は、そうしたミドルブラウ文化研究の動きを継承しつつも、戦間期の英国文化を保守的で内向きなものと見なす英国ミドルブラウ研究の傾向に疑問を付し、英国ミドルブラウ文化が、実は、国際的な社会主義やフェミニズムへの意識を有し、さらに、1930年代のドキュメンタリー映画運動の文脈と関連を有する、「ふつうの人々」による文化の生産活動を促し、福祉国家へと向かう英国社会の変容に寄与するものとして位置づけられるのではないかとの仮説から出発した。

## 2. 研究の目的

本研究は、20世紀前半の英国ミドルブラウ文化・文学が有した革新性と国際性を明らかにするために、(1) 戦間期英国ミドルブラウ文化において鍵となる役割を果たした Winifred Holtby と Vera Brittain という女性知識人の高踏的及び大衆的ジャーナリズムにおける著作、エッセイ、小説、及び小説の映画化作品に焦点をあて、(2) それらを国際性、階級・階層横断性、あるべき社会主義の検討という観点から分析し直すことによって、(3) 英国ミドルブラウ文化・文学が、英国社会の階級・階層を再編成しただけでなく、第二次世界大戦後に成立する福祉国家的枠組みを準備したダイナミックかつ複雑な営みであったものと捉え直し、文化史的観点から学際的に論じることを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 1, 2年目は、海外の図書館で資料調査・収集を行い、英国ミドルブラウ文化・文学、戦間期イギリス文化についての基本的研究書を読むことによってその文化史的・政治史的・経済的文脈を把握した。また、1年目にあたる平成26年5月には日本英文学会に

おいてシンポジウム「ミドルブラウという名の挑発」のパネリストの一人として登壇。その他、ミドルブラウ研究会やヘリテージ映画研究会で知識共有・意見交換のほか、研究発表を行った。

(2) 3, 4年目は、海外の図書館での資料調査・収集を継続しながら、雑誌記事、小説、映画の研究を行い、論文を執筆、刊行した。

(3) 4年目には、上記と並行して、研究成果を発表するために、海外の国際学会での発表や論文の刊行を行った。また、ミドルブラウ研究会として論文集を刊行した。

## 4. 研究成果

本研究は、主に個人研究として行ったが、並行して「英国ミドルブラウ文化・文学研究会」を1年に3回程度開催し、文献に関する討論、メンバーの発表とそれに関する意見交換を行い、2018年度には論集『英国ミドルブラウ文化研究の挑戦』を刊行した。

個人の業績としては、2014年に日本英文学会シンポジウム「ミドルブラウという名の挑発」に講師として登壇したことにくわえて、2016年度に Holtby の定期刊行物上の仕事に関する論文を1本、2017年度に Holtby の小説、および Holtby の小説を原作とする映画テキストに関する論文を計2本、刊行した。2018年度にも、Brittain のジャーナリストおよび小説家としての仕事に関する論文が2本刊行される予定である。

総括すれば、本研究は、Holtby と Brittain といった女性知識人がブラウの戦いをジャーナリズム及び小説上で繰り広げていたという事実、および、それらの著作の内容が英国社会の階層の再編成および大衆教養主義に寄与するものであり、イギリスが福祉国家へと再編成される動きに寄与していた可能性を明らかにしたと言える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

松本朗、「委任統治制度とミドルブラウ文化——モダンな諷刺文学としてのホルトビー『マンドゥア! マンドゥア!』」、

『オベロン』(英米文学研究雑誌) 査読無し、第42巻第1号、2018、58-74頁  
松本朗、「I realized the pledge as our fingers touched」—マンローの初期テクストにおける貧困の表象とメタ・フェミニズム」、『カナダ文学研究』(日本カナダ文学会) 査読有り、第25号、2017、55-72頁

松本朗、「Yes, you've wonderfully good taste, Ernest.」—『真面目が肝心』とガール・カルチャー」、『オスカー・ワイルド研究』(日本ワイルド協会) 査読有り、第15号、2016、55-69頁

松本朗、「田舎の日常性とモダニズム—ロレンスとオーウェルの 牧師の娘小説」、『Metropolitan: A Journal of Criticism』第2期第2号(通巻第58号) 査読無し、2015、454-471頁

松本朗、「炭鉱娘とアメリカの交渉—『フラガール』、フェミニズム、労働の歴史」、『アメリカ・カナダ研究』(上智大学アメリカ・カナダ研究所) 査読有り、第32号、2015、25-43頁

松本朗、「デジタル・アリス—チャールズ・バベッジとコンピューター言語」、『ユリイカ 3月増刊号総特集 150年目の『不思議の国のアリス』』、青土社、招待有り、第47巻3号、2015、148-159頁

〔学会発表〕(計 3 件)

松本朗(MATSUMOTO, Hogara) “The Girl Problem in the Interwar Periodicals.” The Sixth Annual Conference of ESPRit, 2017年6月28日, IULM University, Milan, Italy

松本朗、「[I]t had always been a girlish dream of mine to love some one whose name was Ernest”—The New Woman と The Modern Girl の 間 の ガール・カルチャー」、『日本ワイルド協会』第40回大会、シンポジウム「1890年代再考—ワイルド研究から見る 英文学的動向」、2015年12月5日、慶應義塾大学日吉キャンパス

松本朗、「プログレッシヴ・ミドルブラウ

—Winifred Holtby の挑戦」、『日本英文学会』第86回大会、第4部門シンポジウム「ミドルブラウという名の挑発」、2014年5月24日、北海道大学

〔図書〕(計 2 件)

日本ヴァージニア・ウルフ協会 河野真太郎・麻生えりか・秦邦生・松永典子編、河野真太郎・麻生えりか・秦邦生・松永典子、大道千穂、加藤めぐみ、松本朗、矢口朱美、英美由紀、大田信良、伊藤節著、『終わらないフェミニズム 「働く」女たちの言葉と欲望』、研究社、2016、346(共著) 59-84(担当頁)

井川ちとせ・武藤浩史・福西由実子・木下誠・秦邦生・松本朗編著、「一つの世界の市民」としての映画観客 『クロスアップ』誌と映画『サウス・ライディング』にみられるブラウの戦い」、『英国ミドルブラウ文化研究の挑戦』、中央大学出版部、2018、444(共著) 265-292(担当頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者

松本朗 (MATSUMOTO, Hogara)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：00365678

(2)研究分担者 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：

(4)研究協力者 ( )